

弁理士

---

短答リベンジ！失敗を繰り返さない学習法  
「暗記」から「理解」へ！脱丸暗記のススメ  
岡本 智之 LEC専任講師

---

れっく **LEC** 東京リーガルマインド



0 001313 180649

MM18064

## 短答リベンジ！失敗を繰り返さない学習法

～「暗記」から「理解」へ！脱丸暗記依存のススメ～

### 1. 学習範囲

基本法域 : 特許法・実用新案法・意匠法・商標法

周辺法域 : 不競法、著作権法、条約

周辺知識 : 判例、学説（通説）、（審査基準）



### 2. 効率的な知識習得

×丸暗記 対応可能な限界量を超えている！（遠く合格）

○四区分 学習が進むにつれ自然に覚えてしまう！（短期合格）

①忘れても良い情報 : 文字通り忘れても OK

②頭の片隅に置いておけば十分な情報 : 復習ポイント

③理屈抜きに覚えなければならない情報 : 纏めて整理

④理解さえしておけばそのうち自然に覚えてしまう情報 : 重点復習ポイント

### 3. 区分④の重要性

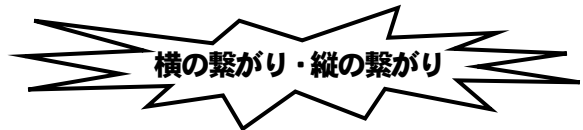
①短答試験の難化（出題傾向の変化）

★過去問に頼った学習では太刀打ち出来ない。

★弁理士試験は法律の知識を問うもの。当然ながら、条文が基軸（条文に始まり条文に終わる！）。

★どんな問題が出ても（出題傾向がいきなり変わっても）、条文を基軸にした学習をしておけば、

条文のあてはめ、趣旨からみた理論プロセスで解ける！



## ②条文を基軸にした学習（特に四法はパーフェクトな理解を目指す）

★短答試験の四法（40問）で、最低8割（望ましくは9割）を獲得することが最終合格への王道。

★論文→短答で上記の実力があれば（知識はパンパン状態）、短答試験後～論文までの間に

答案構成、時間配分の訓練されれば、論文突破は難しくない！

★口述試験の合格率は適性な数値に戻った（過渡期→安定期）。

短答・論文で意識して学習していた「趣旨（何故？）」で十分に対応可能。

★すなわち、短答試験の四法（40問）で、8割（望ましくは9割）を獲得する実力があれば、

且つ、暗記ではなく理解する学習を徹底すれば、論文突破、口述突破も難しくない！

## 4. 試験では何が試される？

・短答試験： 条文・判例の正確な知識



・論文試験： 趣旨、事例への条文・判例適用能力

・口述試験： 趣旨、条文の体系的な知識、コミュニケーション能力

以上

**れっく LEC** 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド

(C) 2018 TOKYO LEGAL MIND K. K. , Printed in Japan

無断複製・無断転載等を禁じます。

MM18064